

霧多布地区コムスクだより

第1号

2019. 6. 14

Kiritapputiku CS Report No.1

昨年度から小学校をモデル校として発足したコミュニティ・スクールですが、2019年度は、霧多布小学校・霧多布中学校2校で霧多布地区コミュニティ・スクールを推進することとなり、このほど（5月29日）、霧多布小学校において第1回目の学校運営協議会が開催されました。

1 学校運営協議会委員紹介

区分	委員名	役職
地域住民	前谷 光	
地域住民	大野 裕幸	会長
保護者	吉崎 裕之	
保護者	南 勝	
地域住民	川原 亮	副会長
地域住民	東海林 圭太	副会長
地域住民	春日 良太	
学校	池田 倫知	
学校	佐藤 英樹	

2 コミュニティ・スクール (CS)

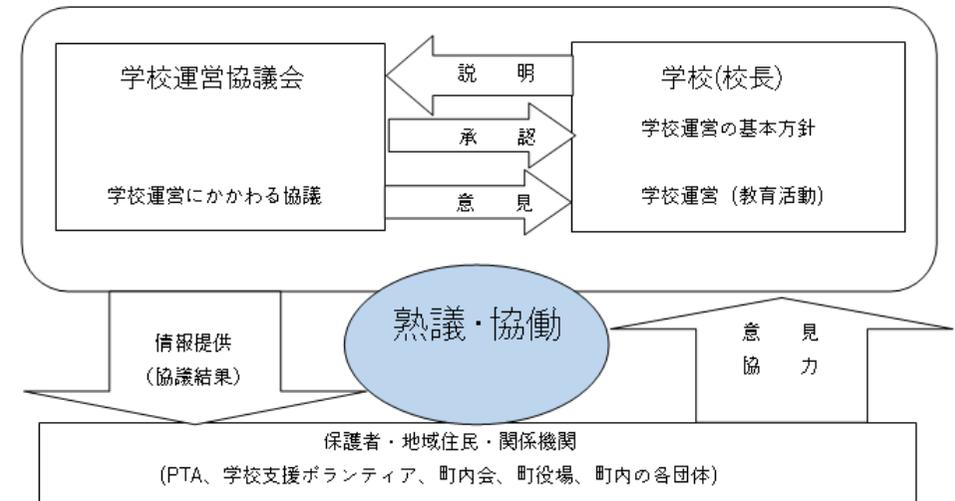
新たに中学校を加えて CS を進めるにあたり、改めてコミュニティ・スクール (CS) について紹介をいたします。

コミュニティ・スクール (CS) を運営するために中心となって話し合い、支えていただく学校運営協議会委員の皆様は、左のとおりです (敬称略)。

今年度からは、小学校・中学校2校がともに CS をすすめるということで、改めて委員さんを委嘱させていただきました。

「地域とともにある学校づくり」のために、お力添えをいただきますようお願いいたします。

コミュニティ・スクールは、学校と保護者・地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ (熟議)、一緒に活動すること (協働) をとおして、地域全体で子どもたちの成長を支えるしくみのことです。昨年度は小学校が先行して CS のしくみを導入しましたが、今年度は小学校・中学校2校が霧多布地区 CS としてともに活動を進めていきます。



3 CSのメリットは

CSを導入することによって、児童・生徒、保護者、地域住民、教職員それぞれにメリットがあり、地域全体で子どもたちを見守り、育てていくことにつながります。

子どもにとって

- ・学びや体験が充実し、思いやる心が育つ
- ・地域の担い手としての自覚が育つ

保護者にとって

- ・学校の教育活動がより理解できる
- ・地域の中で子どもが育つ安心感が高まる

地域住民にとって

- ・経験を活かして、生きがいとなる
- ・学校が地域とつながり、足を運べる

教職員にとって

- ・地域の人や環境を学習活動に生かせる
- ・子どもと向き合いよさをより発見できる

4 第1回学校運営協議会

5月29日、今年度第1回目の学校運営協議会が開催されました。初めに内村教育長より学校運営協議会委員への委嘱状の交付が行われた後、小学校・中学校それぞれの学校運営方針の説明があり、委員の皆様からその場でご承認いただきました。その後、今年度のCSをすすめるにあたっての基本的な考えや活動予定等について学校から説明がありました。概要についてお知らせいたします。

昨年度（2018年度）のCSの成果と課題

【成果】

- 霧多布地区CS導入1年目として、CS推進の基盤づくりができた。
- CSがすすめる具体的な活動として、保護者や地域のボランティアの方々および中学校と小学校との連携を図った活動を立ち上げ、推進することができた。

【課題】

- CSの趣旨や活動について、地域住民にいつそう理解・浸透を図る。
- 霧多布地区ならではのCSのありかたや特色を明らかにすること
- 中学校区に設置された学校運営協議会の役割や運営の在り方を明らかにする。
- 地域住民・関係機関との連携・協働をいつそうすすめ、学校の教育活動に参画する運営の在り方を検討する。

CS推進の基本方針

昨年度のCSの活動の成果と課題を受け、今年度は、次の通りの考え方を基本としてCSをすすめていくことを確認いたしました。

【CS推進の基本方針】

- 小・中学校間および小・中学校と家庭・地域とのつながりをより一層深め、地域住民が学校運営に参画するしつみを構築しながら学校の教育活動の充実を図る。

今年度のCS推進のゴール

また、上のCS推進の基本方針を受けて、今年度の活動のゴールについても次のように設定されました。

【2019年度 CS活動のゴール】

霧多布地域で小・中9年間でめざす子どもの姿および霧多布小・中学生にとっての重要課題を明らかにすること

昨年度のCSと今年度のCSとの大きな違いは、「小・中学校がいっしょにCSの活動を進めること」です。それは、**小学校・中学校の校種を超え、「小・中9年間で子どもを育てていく」という発想に立つ**ということを意味しています。

そのためには、「霧多布地域の子どもを小・中学校9年間でどのような子どもに育てていくのか」を学校・保護者・地域の皆様がともに改めて考え、「同じ目標に向かって」子どもたちを育てていくことがとても重要です。

そこで、年度末までに「霧多布地域の小・中学生が将来にわたって必要な力を身に付け、豊かに成長していくためには、今特にどのような課題があるのか」「小・中9年間をとおしてどのような姿になることを地域全体として願うのか」（「小・中9年間でめざす子どもの姿」）を明らかにし、地域みんなで共有することを今年度の活動のゴールとしました。

CS活動の方向性

今年度は、上のゴール達成に向けて、下の図のような方向や内容で活動を進めていくことも承認されました。

